

第2回 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会 会議録

日 時 令和2年9月8日（火） 午前10時～12時5分

場 所 姫路市役所 10階 第4会議室

出席者 構成員9人、事務局7人

（構成員） 新川 達郎 藤本 真里
長田 秀人 岩田 稔恵
長谷川 文夫 前川 裕司
大森 正雄 大西 弘
依田 法子

（事務局） 姫路市市民参画部 平石部長
姫路市市民活動推進課 藤保課長、村田課長補佐、山岡主任、奥村専門員
市民活動・ボランティアサポートセンター 佃所長、岸本主任

欠席者 構成員1人

（構成員） 森下 龍峰

傍 聴 傍聴可・傍聴人無し

次 第

1 開会

2 議 事

(1) 第1回懇話会での課題報告について（資料1）

(2) 第4次姫路市市民活動・協働推進事業計画 素案について（資料2～5）

3 その他

次回日程調整について

4 閉 会

【議 事】

座 長	まず、議事(1)、第1回懇話会での課題報告について、事務局より説明を。
事務局	【第1回懇話会での課題報告について(資料1)の説明】
構成員	今後5年間で、どのような社会がやってくるかの予測をたて、活動方針を考える上で、一つの資料として、過去5年間の推移は重要。市民活動等の活性化を目指す上で、具体的な計画ができるよう進めていけたらと思う。
構成員	資料より、自治会未加入者が一定数いるが、自治会がフォローできない部分を、行政はどう考えているのか。
事務局	それぞれのお考えがあり、両方の声を聞く。ゴミ収集の例でも、自治会側からは、「自治会に加入していないが、自治会が管理するゴミ収集場所には出されてしまう」と。逆に自治会未加入者からは、「自治会の加入の有無に関わらず、ゴミ収集は行政の義務ではないか」と。市としては、自治会加入が強制かと問われれば、強制ではないとお答えせざるを得ないが、防犯灯や地域の見守り、美化活動等、自治会活動があることで、まちがきれいに保たれ、安全安心な社会にも役立っていると認識しているため、加入いただきたいと説明をしている。
座 長	このあたりは、双方、それぞれの権利、主張があるかと思うが、まちづくりをみんなでどう考えるかという観点でも、議論いただければと思う。 それでは、議事(2)、第4次姫路市市民活動・協働推進事業計画 素案について事務局より説明を。
事務局	【第4次姫路市市民活動・協働推進事業計画 素案について(資料2~3)の説明】
構成員	資料2について、3点質問したい。 1点目。計画を考えるにあたり、ゴール像を明確にすることが大事だが、資料2の中の「持続性と変革に対応した計画」にある『新たな時代に応じた活動』とはどのような時代をイメージしているのか。 2点目。「現下の社会状況を把握した上で策定」に『持続可能な開発目標「SDGs」』とあるが、今回の計画とどのような関係があるのか。 3点目。「進捗管理」に『現行の進捗管理に加え』とあるが、現行の進捗管理とは何か。

事務局	<p>1点目については、「国内外の動向等を反映」のところで挙げていた災害時の地域活動・ボランティアの重要性、ICT等の最新技術の活用、新型コロナウイルス感染症の影響による新しい生活様式への対応等、新たな時代の流れがあると考えている。それに応じた活動を推進したい。</p> <p>2点目は、「SDGs」の大きな考え方として、誰一人取り残すことのない、持続可能でよりよい社会の実現を目指すというものがある。市民活動・協働を推進することにより、そのような社会の実現を目指すという意味では、方向性がリンクしていると考えている。</p> <p>3点目については、第3次計画では、毎年度、施策ごとに進捗状況調書を作成し、その中で年度別の実施状況や今後の取り組み方針等の報告を行ってきた。第4次計画についても、同様の進捗管理を行っていききたい。その上で、前回の会議で、各課による評価だけでは実際の進捗状況がわからないとのご意見をいただいたため、市民活動や協働に対する意識や参加割合がわかるような指標も参考として持つことで、計画が推進できているかをより判断できればと考えている。</p>
構成員	<p>反論ではないが、1点目の『新しい時代』については、事務局としてある程度明確なものを持っておくべきだと考えるが、伝わってこない。</p> <p>2点目の「SDGs」については、資料を読む限り、一度出てくるのみで関係性を感じない。</p> <p>3点目の進捗管理については、現状を正確に把握することが正しく事柄を進めるための第1歩だと思っているが、その部分が見えない。</p>
事務局	<p>2点目の「SDGs」について補足をすると、現在、策定中の新たな総合計画の中でも、「SDGs」について何らかの形で示すと言われている。同時に、環境局で環境基本計画の改定作業を行っているが、そちらでは「SDGs」が様々関わってくる。</p> <p>また、こちらの市民活動・協働推進事業計画では、「SDGs」の17の目標のうち、「11 住み続けられるまちづくりを」及び「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」の2つが特に関連のある項目と考えている。</p>
構成員	<p>1点目の『新たな時代』については、地域のコミュニティ力が減退していく世の中、これが新たな時代だと思っている。市の回答では、このような説明がなく、市民側の立場で考えていないのではと感じた。</p>

事務局	<p>一般的に言われている地域のコミュニティ力が減退している部分と、その一方で、地域の繋がりが必要な災害時等の活動がより重要視されているという部分、その両面を持つのが新しい時代で、地域の活動をいかに繋がりをもってやっていくかが求められていると考えている。姫路市の特性に応じた地域活動が引き続き必要であり、地域活動の充実については計画の中にも入れていきたい。</p>
構成員	<p>自治会や婦人会等の地縁系の団体と、NPO法人やボランティア団体では特色が違うが、協働を推進していくという観点で、どう融合させていくのか。</p>
事務局	<p>姫路市市民活動・協働推進指針では、地縁系の団体、NPO法人、ボランティア団体等すべての市民活動団体の活動を市民活動としている。また、協働は、市民活動団体同士の協働もちろんだが、市と市民活動団体との協働も含んでいる。地縁系の団体と、NPO法人やボランティア団体では、活動母体や活動場所等が違うこともあり、すべてが連携してできるものではないため、まずは個々の団体の活動が活発にできることを前提に、お互いの活動の目的がマッチングできることを、市としてサポートしていく。</p> <p>第3次計画でも項目として挙がっていたが、なかなか進んでいないところでもあるため、引き続き具体的な事業を考えていきたい。</p>
座長	<p>市民活動団体それぞれが、活発に活動できるようにすることが1点目、また、それらの団体と行政や事業所等が、連携してよりよいまちづくりをできるようにすることが2点目。その具体的な方策として、いかにして団体個々の活動を強めていくのか、そして、いかにしてそれぞれの団体が協力・連携できるような仕組みを作っていくのが、この計画の主となるところである。</p> <p>それでは、資料4、5について事務局から説明を。</p>
事務局	<p>【第4次姫路市市民活動・協働推進事業計画 素案について（資料4～5）の説明】</p>
構成員	<p>新規の項目が13項目、変更の項目が23項目ある。その中で、約7項目が検討、研究となっている。計画実施期間5年間もかけて、検討、研究のみとはどうなのか。文言として好ましくないのでは。</p>
事務局	<p>予算や人員の面で確約できるものではないので、記載する際に検討、研究となってしまう。新規で事業として挙げても、予算がつくとは限らない。文言は、実施できているものと、実施できるか確定できていないものといった分け方</p>

<p>構成員</p>	<p>となっており、検討、研究といった文言を使っている。</p> <p>目玉となる政策が見えない。個人的な意見としては、地域の活性化の観点から、指針3に新たに項目を作り、横断的に散りばめられている地域活性化に関する項目を集約すればどうかと考えている。そうすれば、地域の活性化に重点を置いて行おうとしていることが見えやすい。</p>
<p>構成員</p>	<p>資料1より、市民活動・ボランティアサポートセンター登録数やひめじおんまつり参加団体数は右肩上がりである。第1次から第3次計画の活動結果であると感じている。これから第4次に入っていきにあたり、これ以外の様々な指標があると思うので、それらを取り入れ、取り組んだ活動結果が目に見えるようになればと思う。</p> <p>一方、資料1のグラフにもあるように、老人クラブの会員数は右肩下がりである。地域のコミュニケーションの希薄化や定年の高齢化等により、役員のなり手が無い。加入率としては、全国の中核市で見るとトップではあるが、28%ほどである。高齢化が進んでおり、老人クラブや高齢者の方の力を活かす場づくりというのが課題。今回の計画にも、老人クラブ等の活動を活性化できるような項目を入れてもらいたい。</p> <p>また、最も重要なこととしては、市民の愛市精神を高めることであり、そのような項目も追加してもらいたい。</p>
<p>構成員</p>	<p>姫路市の人口がこれから減少していく中で、各団体の活動を高めていくのは難しい。価値観の多様化や地域住民の異動も煩雑になり、地域型の活動における課題とNPO法人のようなテーマ型の課題が常々発生している。そのため、現在、それらの課題を解決しようとしている団体が多数あるが、それらの団体との繋がりが疎遠であることが姫路市の問題である。課題解決のためには、各団体の繋がりが必要。基本指針3-①-1「センター事業の充実とコーディネート機能の強化」とあるが、コーディネーターを設置する等、もっと具体化する必要がある。課題解決に向け、様々な団体が連携していけるような状況を生み出すことができれば、将来の課題も解決していくことができる。</p> <p>また、全国で地域活動がうまくいっている自治体等の事例や指針等を座長よりご紹介いただくと、計画を立てる上での方向性が見えるのでは。</p>
<p>座長</p>	<p>すでに姫路市内でも、自然環境の保全や地域の歴史の見直しといった活動をはじめているものがあるが、まだまだ点の活動。こういったものが広がっていくと</p>

	<p>よい。過疎が進む地域では、地域コミュニティ力が落ちていくのをどう補っていくかが問題となっているが、一つとして、少し広域化はするが国内の他地域と連携していく、それでは専門性が足りない場合は、それぞれ専門分野のNPO団体等に協力をしてもらい、行政が下支えをする。こういった小規模多機能自治のあり方を考えているところも、全国には多数ある。姫路市にそのまま当てはめられるかは議論が必要だが、地縁の組織とNPO型の仕組みをうまく組み合わせ、地域を持続可能にしていこうという試みもあることを念頭に置きつつ、計画を策定できればと思う。</p> <p>他の構成員からも話があったが、地縁系の団体と、NPO法人やボランティア団体ではスタンスが違う。資料では、ボランティア、NPOという文言が多数使われているが、地縁系団体の活動もボランティア。ただ、ボランティア活動をしているという感覚で活動をしているわけではない。ボランティアという言葉が前に出すぎている。もちろん地縁系団体の困っている部分について、NPO法人やボランティア団体等の専門的な知識を活かすことは、今後、非常に必要となってくると考えている。</p> <p>また、地縁系団体の現状として、短期の役員交代で、役員選任に疲弊してしまい活動を維持できなくなっている。このままでは、3年後も5年後も同じことの繰り返しである。それぞれの組織の重なりを省くため、組織を一から再構築するぐらいの気持ちが必要。</p> <p>もう一点。地縁団体の法人化の敷居が高い。特に連合自治会レベルになると難しい。地域の財産管理にのみ利用するような制度であることから、条件面の負担を軽減してもらいたい。</p>
<p>構成員</p>	<p>認可地縁団体の制度は、地方自治法に基づいた制度のため、市によって取り扱いが違うということはない。現在、市内では約270の団体が認可を受けているが、小規模であるほど認可を受けやすい。認可にあたっての最大のネックは、構成員が世帯単位ではなく、その地域に居住している1人1人であるところである。構成員の数を把握したり、総会のたびに委任状を集めたり等、非常に手間がかかる。見直しについては、姫路市単独ではなく、中核市の市長会等を通じて要望していく。</p>
<p>事務局</p>	<p>基本指針1-①-3にある「若年層向け啓発・体験事業の充実」の事業例に『ひめじ夏のボランティア体験』とあるが、ボランティア体験をわざわざさせるような事業を計画に入れる必要があるのか。若年層をどの世代と考えているかはわか</p>

<p>事務局</p>	<p>らないが、小・中・高校生等は、すでに地域活動や学校活動でボランティア活動に参加している。市が考えているボランティアと市民が考えているボランティアとは大きな隔たりがあると感じる。むしろ 20 代、30 代が参加すべき場所をつくっていかなければならない。例えば、企業等へボランティア制度を導入するよう働きかけるような施策が入ると画期的である。</p> <p>『ひめじ夏のボランティア体験』は今年で 3 年目。対象は、高校生、大学生、専門学校生。高校から、生徒がボランティア体験できるようなメニューがないかとの相談があったこと等がきっかけとなり、他市事例を参考につくったものである。</p> <p>『ハジメのイッポ』はボランティアを体験したことない方のきっかけづくりとして実施しており、こちらは社会人も対象。現在、約 15 のメニューがある。</p> <p>どちらの事業も、これがきっかけで活動を広げてもらえればという思いで実施している。</p>
<p>事務局</p>	<p>補足すると、どちらの事業もメインターゲットは 10 代後半から 20 代前半。ボランティアに行く先は、市民活動・ボランティアサポートセンターの登録団体に協力をしてもらっており、参加者に登録団体の活動を知ってもらうという意味合いも大きい。また、受け入れ団体側も、若者の意見や視点に気づくこともあり、若者と団体を繋ぐという意味合いでも重要であると考えている。</p>
<p>構成員</p>	<p>ボランティアに関する相談については、市民活動・ボランティアサポートセンターの対応が非常に重要だと感じている。姫路市一斉清掃等、気負わず入っていけるような地縁系のボランティア活動も様々ある。目に見えたボランティア団体の活動だけでなく、手始めにするには、自身の居住する地域の活動に参加することもボランティア活動であるため、市民活動・ボランティアサポートセンターでは、そのことも含め案内してもらいたい。</p>
<p>構成員</p>	<p>協働の推進は、市民活動推進課だけが主体ではなく、市役所の全部署、市民も主体と捉えるべきである。計画を策定する側、それに従って実施する側と分かれていると、いつまでも協働にならない。今回の計画で、例えば、『情報提供の充実』を重点項目に挙げているが、その内容、提供方法など関係部署や市民との議論も踏まえ、協力を得ながら推進しなければ、活用されるものにならない。各施策において、関係者をその気にさせる工夫を考えるべきである。</p> <p>また、提案型協働事業において、市民団体の提案は、充実してきている。この</p>

	<p>ままの手法で新規団体の申請の増加を目指すより、協働相手となる担当課の取り組み姿勢を向上させる大胆な改革が必要ではないか。市の希望部署が自ら推進したい施策を市民団体と実施するという提案をしてもらってはどうか。今後の方向性として、行政と市民がパートナーとなれるよう、補助金で出すのではなく委託として出す、一部だけ切り取って出すのではなく総合的に出す、委託として出す場合も、甲と乙という一般企業との従来の委託契約における関係性ではなく、市役所と市民がパートナーであるというスタンスの協働契約ともいえるようなしくみが必要である。</p>
構成員	<p>提案型協働事業での問題は、提案側の市民団体は無償でやっているが、職員は有償でやっていることである。ここに隔たりを感じている。</p>
構成員	<p>一市民として、他の市民の方と関わり、喜んでもらえるよう、まず目の前のことに前向きに取り組むようにしている。そのことが、姫路を愛する人材を育てることに繋がると思って活動している。</p>
座長	<p>いい姫路市をつくろうとする気持ちは市民も市役所も同じ。ただ、市民の側がいい提案をしたときに、市の側が応えようとする姿勢は程度の差があると感じている。</p> <p>全市的に、市民や企業と協働事業を取り組もうとする姿勢は、建前はあっても、個別具体的な事業では生きてこない。様々な協働の在り方を、行政の仕事の中に積極的に取り込んでいく必要がある。委託や指定管理者制度など活用する余地は様々あるが、今回の計画の中には新たな動きがほとんどない。もう少し広く深く検討する必要がある。</p>
構成員	<p>老人会、婦人会の加入率は少ないが、他市と比べればかなり高い加入率であり、姫路市は土台がしっかりしている。自治会、老人会、婦人会等、地縁系団体はうまく連携もとれている。その中に、例えば、地縁系団体の勉強会等にNPO法人等の講師を招き、地縁系団体のスキルアップに繋げるといったような形で、団体間の連携がうまく回っていけば、誇れる姫路市になると思っている。</p>
座長	<p>姫路市の地域力は、全国的にみると珍しいぐらい高い。NPO法人やボランティア活動も活発で、これを活かさない手はない。このあたりは事務局にも考えてもらい、市民の力をもっと引き出す、そして、もっと素晴らしい姫路市を行政も一緒に作っていく、そのような視点で議論をしていければと思う。</p>

	<p>本日の議事については、以上にさせていただきたい。</p> <p>次回の会議では、パブリックコメントへ提出するための原案がでてくることとなるため、それについて議論させていただきたい。</p>
--	---

【その他（日程調整について）】

第3回 姫路市市民活動・協働推進事業計画検討懇話会は、令和2年11月17日(火)午前、もしくは令和2年11月19日(木)午後を開催する。欠席者の予定を確認後、改めて通知する。